

近松素子 個展 - 星のつづき -

Motoko Chicamatsu solo exhibition - somewhere beyond the stars-

2021.3/20sat-4/4sun 3/25・4/1 木曜日休廊 12:00-18:00



「残り瞬き」
エッチング/モノタイププリント
100×300mm
2021

このたび、ギャラリー・ヘプタゴンでは近松素子個展 - 星のつづき - を開催いたします。

近松素子は、関西を中心に精力的に銅版画制作・発表を続けている注目の作家の一人。

おはじきのような小さなピースの銅版をプレス機のベッドプレートに並べ、紙を乗せプレスするという独自の方法を用いてイメージを生みだしてきました。

繊細な描写は鉱物や水滴のような自然科学の世界から宇宙までも連想させ、鑑賞者の想像力をかき立ててくれます。さらに、やわらかな紙面に写しとられたたくさんのプレートマークが、紙・銅版・インクの物質感を際立たせます。

彼女の自宅アトリエの窓辺には、化学者であった彼女のお父様の形見というフラスコや古びたラベルの薬品ボトルが並び、壁には額に入った「観自在」の書が掛けてありました。そういった環境が彼女を育み、作品のバックボーンであるともいえます。ミクロな世界から天空の星までもつづく近松の「視線」が集積された作品の数々。

展覧会では新作含め作品 25 点余を展示・販売予定です。

なお、本企画展はギャラリーヘプタゴンの一周年記念にあたり、期間を通常より少し長めに設定しております。

この機会にぜひご高覧くださいませ。



GALLERY HEPTAGON
HEPTAGON WORKS GALLERY and LIVING

【作家ステートメント】

「星のつづき」

私の見ている星の

つづきはどこにありますか。

星のつづきは彼方へと彼方へと。

手を伸ばすその先のまた次へと。

届かないんじゃない。

追いつかないんじゃない。

星は行く先を歌い、足跡を飾り、

瞬きながら呼んでいる。

・

かつてない状況の中で、作品発表の機会があるたびに葛藤や躊躇があります。

未知で不安定な日々が続き、未来へのためらいからか、ビジョンの立てにくさに気付きました。

しかしながら、制作が許される環境にいる事は感謝も当然ながら、作るものに対し、より強い気持ちで向き合っています。

制作や発表の在り方に思いを馳せていると、手元にある銅はひんやりと冷たく、鈍く光っていて、私に「何はともあれ、次いこか」と、どこかへ連れ出してくれるのです。



「その中、その外」
エッチング、アクアチント
250×250mm
2019



GALLERY HEPTAGON
HEPTAGON WORKS GALLERY and LIVING



「宇宙から見れば私は宇宙分の1__II」
エッチング、アクアチント、メゾチント
650×650mm
2016



「新しくここへ」
エッチング、アクアチント
650×650mm
2020



GALLERY HEPTAGON
HEPTAGON WORKS GALLERY and LIVING



【PROFILE】

近松素子 Motoko Chicamatsu

1986 嵯峨美術短期大学ビジュアルデザイン科卒業

1988 京都インターナショナル美術専門学校 絵画・版画コース卒業

2007 あおもり国際版画トリエンナーレ 審査員奨励賞

2000 第50回西宮市展 優秀賞

2018 長野県 信濃追分文化磁場油やにてアーティストインレジデンス

2010 アフィニス・サウンド・レポート No.38 (財団法人アフィニス文化財団) 装画

主な個展

2020 Oギャラリー ('08 '10 '12 '14 '15 '16 '18・東京)、パン・オ・スリール ('18 '19 東京)

ギャラリーアライ ('16 '18 西宮)

2019 ギャラリー白 ('90 '99 '00 '04 '07 '09 '11 '13 '15 '17 大阪)

2011 ギャラリーシラサ ('12 '13 神戸)

他グループ展多数